第１８８回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成３１年３月２８日提出）

１．題　目： わかる！作れる！ルーブリック！

２．日　時：平成 31 年 3 月 5 日（火）13：00～14：30

３．場　所：教養教育棟 1 階 A-12 教室

４．主　催： 教務委員会　企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する申合せ第２第１項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　○　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　○　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
ルーブリックの基本的な知識や実際の活用事例について紹介します。また，フロアで実際に作成し，その過程や完成したルーブリックについて議論することで，個々の授業に合わせたルーブリックの作り方のポイントをつかみます。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）
講師：前田裕介 助教（大学教育イノベーションセンター）
内容：・ルーブリックについての解説と作成要領の確認
・課題ルーブリック作成ワークショップ
・質疑応答ほか

９．参加者：6 名
（内訳）

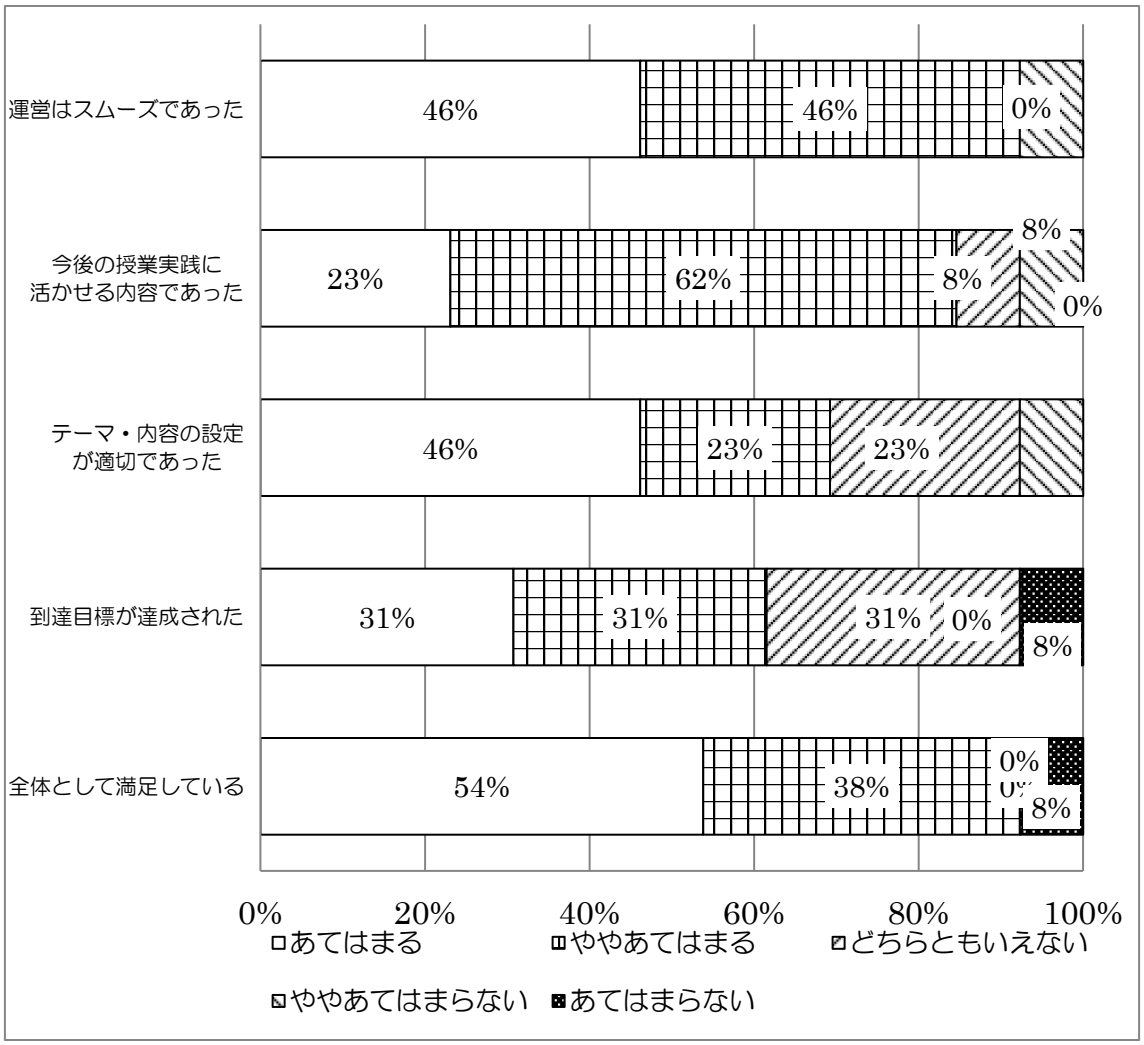
所　属	人数

教育学部	1
ICT 基盤センター	1
言語教育研究センター	1
大学教育イノベーションセンター	2
戦略職員	1
計	6

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）



Ⅱ．今回のプログラムについて、お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

・説明された内容に、意味が分からない部分がいくつかありました。例えばスライド 6

や 12 の内容などは、笑いを取るためだけのものだったのでしょうか。

・グループワークの設計には非常に無理・無駄があったように感じました。同じ内容をやったという前回の FD では問題にならなかったのでしょうか。
ルーブリックを使っている教員には物足りない内容だったでしょうし、ルーブリックに懐疑的な教員を納得させて今後使いたいと考えを改めさせるような内容でも無かったように感じられ、受講後は中途半端な感覚が残りました。

・ルーブリックは授業でこれまで使ってきましたがさらにブラッシュアップする機会になりました。

・ルーブリックの作り方について学べる機会なのでもっと参加者がいれば良かったのにと思いました。

Ⅲ．長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容についてご意見・ご要望をご記入下さい。

・教員が参加しやすい時期であるにも関わらず、参加者があまりにも少なく、また、内容も「以前開催したものと同じ」というのはいかがなものかと思いました。
手間をかけずに実施できる FD ではなく、学内の教員にどのような部分が不足、または求められているのか、学内を観察して潜在的なものも含めてニーズを調査し、学外動向も把握して学内にフィードバックするような FD を企画する必要があるのではないでしょうか。

（２） 総　括

本 FD はルーブリックの基本的な知識や実際の活用事例について紹介し、またその場で実際に作成作業を行い、その過程において気づいたことや完成したルーブリックの内容について議論することで、個々の授業に合わせたルーブリックの作り方のポイントをつかむことを目的として企画した。当日はルーブリックの説明部分まではスムーズに進んだが、グループでのワークに入ると、講師の力量の低さに加えて参加者のバックグラウンドやルーブリックの予備知識に差があることから、作成作業が難航し結局時間内に完成に至ることができなかった。

作業中に参加者同士や参加者と講師が議論することでルーブリックへの考えを深めるきっかけには幾分なったとは思われるが、実際に参加者が表題の通り「わかる！作れる！」といった状態になったかについては甚だ疑問であり、参加者の意見を真摯に受け止め、設計の全面的な見直し・改良が必要である。

（文責：前田裕介）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長 塚元 和弘

e-mail：ktsuka@nagasaki-u.ac.jp 電 話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班

主査 寺川 美穂

e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp

電 話：内線 2077

第１８８回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成３１年３月２８日提出）

１．題　目： 学生発案型授業におけるアクティブ・ラーニングの展開

２．日　時：平成 31 年 3 月 7 日（木）15：30～17：00

３．場　所：教育学部 2 階第 5 会議室

４．主　催： 教務委員会　企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する申合せ第２第１項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　○　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　○　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
ルーブリックの基本的な知識や実際の活用事例について紹介します。また，フロアで実際に作成し，その過程や完成したルーブリックについて議論することで，個々の授業に合わせたルーブリックの作り方のポイントをつかみます。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）
講師：成瀬尚志 准教授，北村史 助教，前田裕介 助教（大学教育イノベーションセンター），学生による教育改善のための委員会
内容：・学生発案型授業の内容と取り入れたアクティブ・ラーニングについて
・アンケート調査結果と考察
・質疑応答ほか

９．参加者：12 名
（内訳）

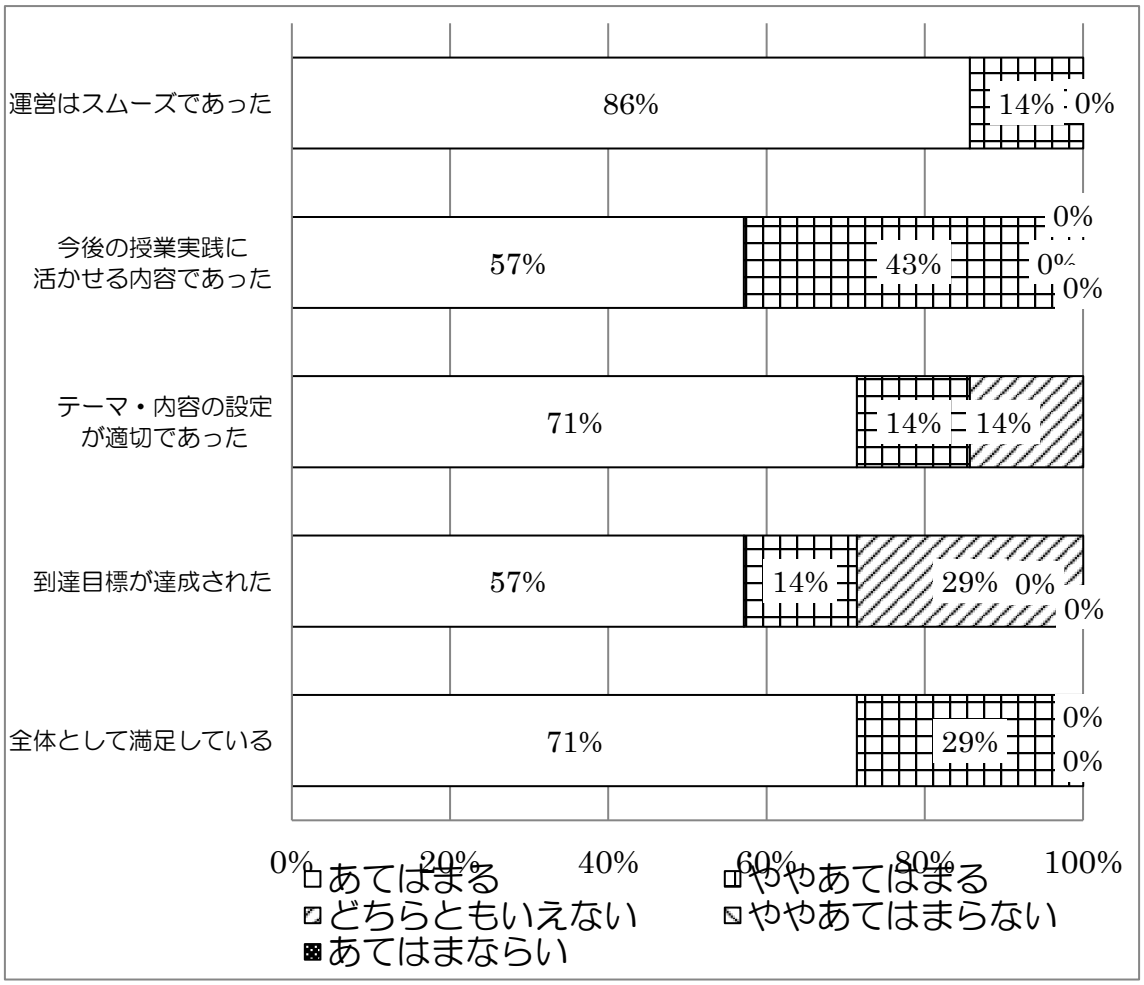
所　属	人数

教育学部・教育学研究科	3
水産・環境科学総合研究科（環境科学領域）	1
医歯薬学総合研究科（医学系）	1
工学部研究科	1
大学教育イノベーションセンター	3
戦略職員	1
事務職員	1
学生	1
計	12

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）



Ⅱ．今回のプログラムについて、お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

・全体として満足しています。
授業実践の中での受講生の自分たちに対する変化はわかりましたが、学生委員はどのような変化があったのか、という点について、もう少し学生達の話が聞きたかったです。
また、こうした授業を通じて学生にとってのアクティブ・ラーニングの定義が「グループワーク」や「ディスカッション」を指すものである、という、AP が始まったころの教員の誤解に近い認識に逆行しないように、という点では注意が必要に感じました。
第 2 クォーターに開催して非常に大きな手ごたえを感じたのであれば、後期に新たな講師の手配をはじめてこれまでの経緯を踏まえたスムーズな依頼・授業設計ができたのではないかと思いました。ここで切れてしまうことは非常に残念に感じます。大教センターの下部組織であれば、学生に対してそこを手助けする役割がセンター教員側にあったのではないかと思いました。
・一部ですが（FD のレベルが高いので)、自分の授業に取り入れられる部分があるのがありがたいです。
・授業の組み立て、展開、学生の参加、とても参考になりました。
・ありがとうございました。また期待しています。

Ⅲ．長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容についてご意見・ご要望をご記入下さい。

・アクティブ・ラーニングについてはぜひ継続して下さい。なかなか出られませんが、誰にどこで相談すればよいかよくわかります。(授業コンサル、ということですね)
・総合大学なりの、それぞれが融合したものはいかがでしょう。

（2） 総　括

本 FD は本年度開講した学生発案型授業「長大生が考える『人生とは何だ？！』」に関して、開講までと開講中にどのような準備をし、実際にどのような授業を行ったかについて特にアクティブ・ラーニングに焦点を当てて説明するものである。同時に、授業の中で行ったアンケート調査結果から、学生がアクティブ・ラーニングについてどのような感想を持ったのかについても紹介し、教員の考えるアクティブ・ラーニングと学生が考えるアクティブ・ラーニングについて議論することも目的とした。

当日は、実際に授業を担当した教員の他、授業を企画する上で中心的な役割を果たした「学生による教育改善のための委員会」からも学生が出席し、参加者とアクティブ・ラーニングの捉え方、授業内でどのような思いでワークに取り組んでいるのかな

ど、ざっくばらんな雰囲気で議論することができた。学生と教員が授業の内容について本音で語り合える機会はあまり無いと思われることから、今回のFDは非常に有意義であり、継続して開催することが望ましいだろう。学生発案型授業そのものへの教員からの反応もとても良く、来年度以降再開講できないか検討を進めることも行っていきたい。

（文責：前田裕介）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長 塚元 和弘
e-mail：ktsuka@nagasaki-u.ac.jp 電 話：内線2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
主査 寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電 話：内線2077